

# 宇治川床上浸水対策特別緊急事業

再 評 価

平成16年11月 4日

国土交通省 四国地方整備局

# 目次

1 . 仁淀川の概要 . . . . .	1
2 . 仁淀川水系工事実施基本計画の概要 . . . . .	3
3 . 宇治川流域の概要と事業の経緯	
1 ) 宇治川流域の概要 . . . . .	4
2 ) 宇治川の水害状況 (平成16年8月1日洪水) . . . . .	5
3 ) 宇治川治水事業の経緯 . . . . .	6
4 ) 治水施設位置図 . . . . .	7
4 . 宇治川宇治川床上浸水対策特別緊急事業の概要	
1 ) 事業の目的 . . . . .	8
2 ) 事業の内容 . . . . .	8
3 ) 宇治川床上特緊急事業の主な経緯 . . . . .	9
4 ) 新宇治川放水路の進捗及び工事施工状況 . . . . .	10
5 . 費用対効果の考え方 . . . . .	11
6 . 再評価の概要 . . . . .	12

# 1 . 仁淀川の概要

## 1 ) 流域の概要

仁淀川は、四国山地の西部、西日本最高峰の石鎚山（標高1,982m）に源を発し、蛇行しながらほぼ南東に流れ、高知平野西部を貫流して土佐湾に注ぐ一級河川である。

その流れは面河溪，御三戸嶽の景勝地を経て大渡ダムに至り、安徳天皇御陵として伝えられる横倉山の山すそを流れ、土佐和紙の町いの町に至って平野部に出て、土佐市，春野町の高東平野，吾南平野を貫流している。

流域面積は 1,560km<sup>2</sup>で、幹川流路延長124kmの河川であるが、標高1,500m～2,000mの四国山地から一気に南流して土佐湾に注ぐ著しい急流河川となっている。流路は山間部を蛇行し、直轄区間においてようやく平野が見られ、流域における平地面積はわずかに3%である。一方、宇治川，日下川，波介川等の下流支川は、構造線に沿った地質脆弱な地層を流れる緩流河川となっており、沿川は典型的なおぼれ谷地形を呈している。

仁淀川流域は、全国有数の多雨地帯、南四国の中央に位置し、台風銀座の名で知られる豪雨地帯である。年間降雨量は上流部で2,500～4,000mm、下流平野部で2,000～3,500mmとなっているが、その年の台風によって大きく左右される。沿川はおぼれ谷地形を呈しており、特に南側に口を開いた谷筋では、台風が西側を通過する際に顕著な気流の収束が起こり、豪雨をもたらす事が知られている。

流域の産業は、商品価値の高いハウス園芸による各種の野菜栽培が盛んであり、きゅうり・なす・ピーマン等の生産量が多く、そのほとんどが京阪神，東京市場等指定消費地に出荷されている。



写真 - 1 仁淀川（河口より上流を望む）



図 - 1 流域図

表 - 1 計画緒元

区分	幹 川		支 川		
	仁 淀 川		波 介 川	日 下 川	宇 治 川
水源地及標高	愛媛県上浮穴郡面河村 (石鎚山 1,982m)				
流域面積	1,560 km <sup>2</sup> { 山地 1,483 km <sup>2</sup> 平地 52.0 km <sup>2</sup>		(73.3 km <sup>2</sup> )	(38.0 km <sup>2</sup> )	(14.2 km <sup>2</sup> )
流路延長	124.0 km		19.0 km	11.7 km	7.5 km
氾濫面積	44.6 km <sup>2</sup>				
かんがい面積	23.6 km <sup>2</sup>				
大臣管理区間	36.3 km (ダム区間 10.4 km)		(2.2 km)	(5.0 km) (放水路)	(3.3 km)
計画高水流量	基準地点	基本高水流量 17,000 m <sup>3</sup> /S			
	伊野	計画高水流量 14,000 m <sup>3</sup> /S			
計画流量 改定経過	伊野地点	基本高水流量 12,000 m <sup>3</sup> /S			
	S23年決定	計画高水流量 12,000 m <sup>3</sup> /S			
	"	基本高水流量 13,500 m <sup>3</sup> /S			
	S41年決定	計画高水流量 12,000 m <sup>3</sup> /S			
	"	基本高水流量 17,000 m <sup>3</sup> /S			
	H元年決定	計画高水流量 14,000 m <sup>3</sup> /S			

( )書きは、内書を示す。

## 2. 仁淀川水系工事実施基本計画の概要

### 1) 治水事業の沿革

仁淀川水系の治水事業は、昭和23年から直轄事業として、伊野における計画高水流量を12,000 m<sup>3</sup>/sとし、伊野から河口までの約13 kmの区間について改修工事を行ったことに始まる。

その後、昭和38年8月洪水(被害家屋1,861棟)に鑑み計画を再検討し、昭和41年に一級河川に指定されたことに伴い、工事実施基本計画を策定した。その内容は、伊野において基本高水流量のピーク流量を13,500 m<sup>3</sup>/sとし、大渡ダムにより1,500 m<sup>3</sup>/sを調節して、計画高水流量を12,000 m<sup>3</sup>/sとするものであった。

この計画に基づき、多目的ダムとして大渡ダムの建設、堤防の新設及び拡築、護岸の設置等を実施してきた。

しかしながら、昭和50年8月洪水(被害家屋9,192棟)及び本川流域の社会的、経済的發展に鑑み平成元年3月、本川計画を全面的に改定した。また、慢性的に生じている宇治川の浸水被害の抜本的対策として、新宇治川放水路を位置付ける部分改定を平成7年3月に行い現在に至っている。

### 2) 基本高水流量のピーク流量及び計画高水流量

仁淀川水系の治水計画の検討の結果、治水安全度を1/100、基本高水流量のピーク流量を17,000 m<sup>3</sup>/sとし、このうち大渡ダム等上流ダム群により3,000 m<sup>3</sup>/sを調節することとし、計画高水流量を14,000 m<sup>3</sup>/sとした。

また、支川波介川の計画高水流量については、波介川水門において900 m<sup>3</sup>/sとした。

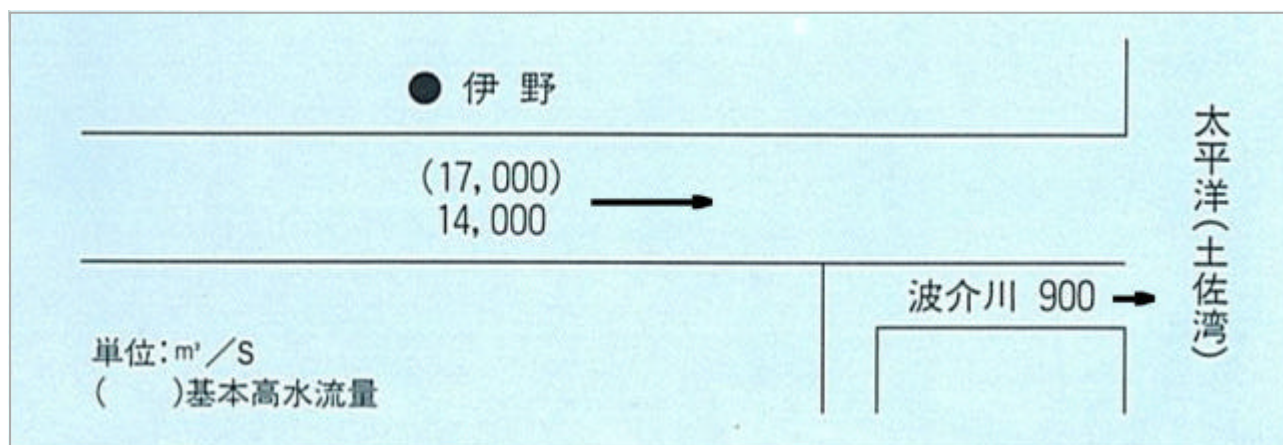


図 - 2 流量配分

### 3 . 宇治川流域の概要と治水事業の経緯

#### 1 ) 宇治川流域の概要

##### 流域の概要

一級河川仁淀川水系宇治川（以下「宇治川」という）は、その源を高知県吾川郡いの町槌ノ木に発し、いの町の平地部を西に流れながら、途中天神ヶ谷川、早稲川等の小支川を合流した後、いの町音竹地内（仁淀川河口から9.8km 地点）で仁淀川本川に合流する流域面積14.2km<sup>2</sup>、流路延長 5.5kmの仁淀川下流部の左支川である。

宇治川流域は、高知市に隣接（約10km）し、土讃本線（JR 四国）、国道33号、土佐電鉄等による交通機関も便利なことから高知市のベッドタウンとして、また生活圏として近年急速に都市化が進んでいる。

宇治川流域は、以下に示す地形や気象条件から全国的にも有数の浸水被害多発地帯であり、都市化の進展と共に浸水被害は深刻な問題となっており、内水被害の抜本的対策が急がれている。

##### 地形状況

宇治川流域は、平地部の地盤が奥に行くにしたがって低くなり、三方を山で囲まれた内水の溜まりやすい鍋底地形に加え、宇治川の河床勾配が極めて緩く、水はけが悪く、内水氾濫を引き起こしやすい地形となっている。

さらに、合流点直下流の八田堰の堰上げが排水不良を助長し、極めて劣悪な地形的条件にある。

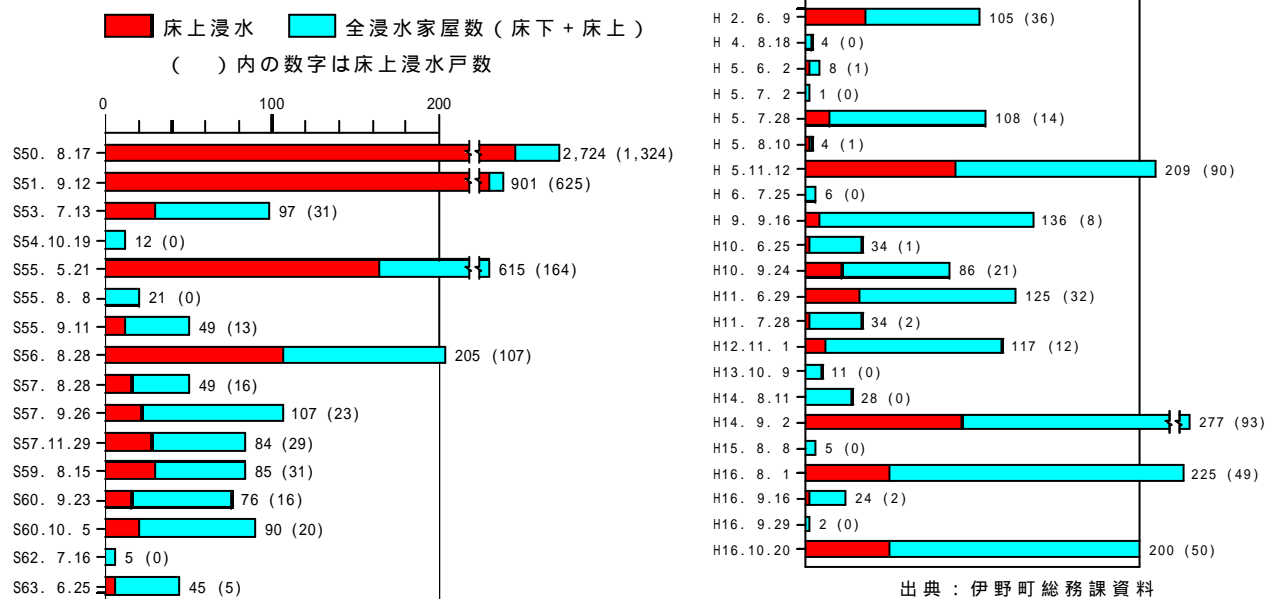
##### 気象条件

仁淀川流域の年平均降雨量は2500mmを越え全国でも屈指の多雨地帯であり、宇治川流域も、比較的降雨量の多い地帯に属し、集中豪雨の発生しやすい地域となっている。

#### 2 ) 宇治川の水害状況

宇治川流域は、昭和50年8月には、約2,700戸が浸水する大被害を受け、この災害を期に、河川改修や排水機場建設・雨水貯留施設建設等の様々な治水対策が講じられてきたが抜本的対策には至らず、依然として毎年のように浸水被害に悩まされている。

##### 昭和50年以降の宇治川流域の浸水被害一覧



出典：伊野町総務課資料

図 - 3 浸水被害一覧

今年も台風10号の影響により、下図のような浸水被害を受けている。

宇治川流域浸水状況平面図（平成16年8月1日 台風10号）

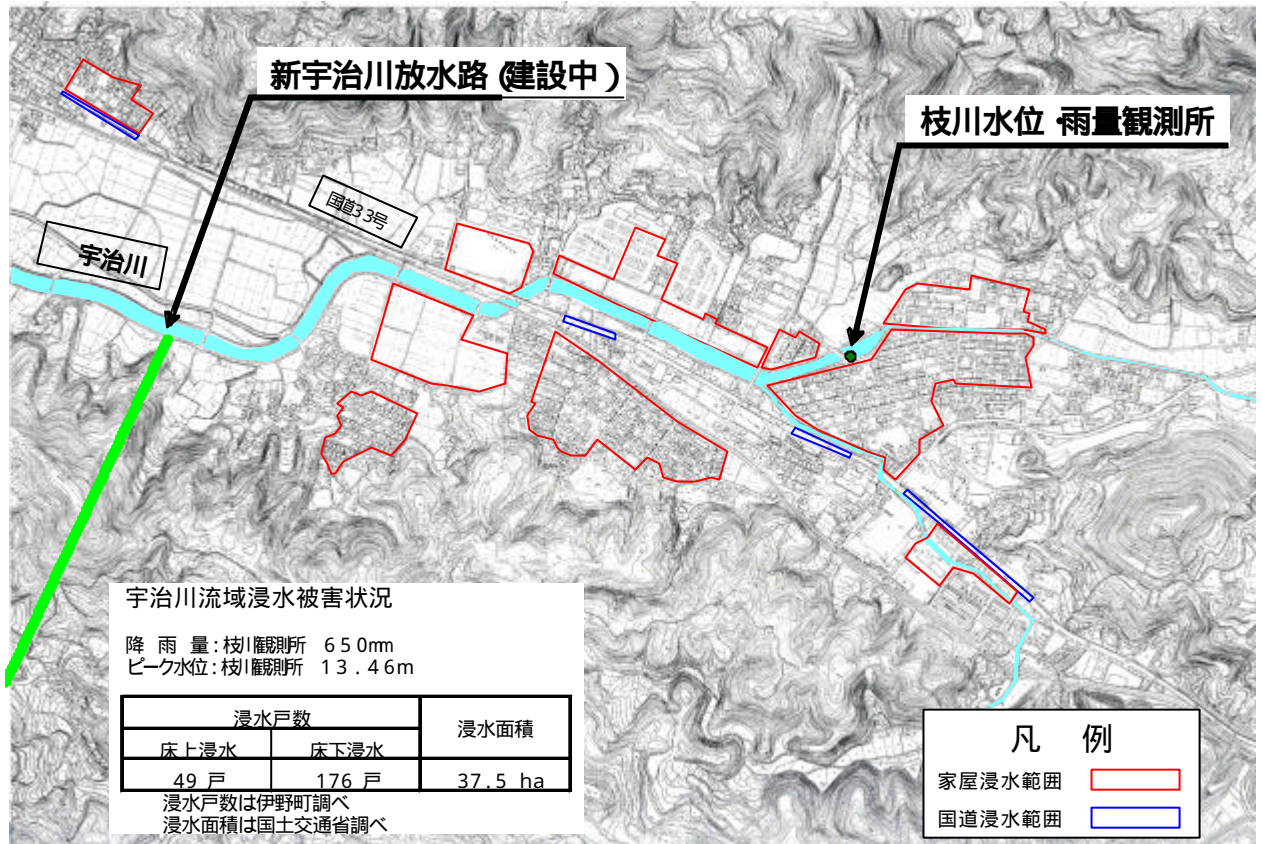


図 - 4 浸水被害平面図



写真 - 2 浸水状況

### 3) 宇治川治水事業の経緯

宇治川の河川改修は、昭和21年の南海地震を契機に地盤沈下対策事業で宇治川放水路が設置されるとともに、狭間橋までの河道の一次改修が行われた。その後、昭和48年度に仁淀川合流点から2.9km区間が直轄編入され（翌年3.3kmまで延伸）、本格的な河川改修が行われた。特に、昭和50年8月の大水害によって激特事業に採択された後は集中的な治水投資が行われ、宇治川排水機場の増設（合計30m<sup>3</sup>/s）、暫定河川改修が完了している。

県管理区間（3.3km上流）においても、昭和50年の激特事業採択以後、急速に治水施設が整備され、支川早稲川に放水路を完成（Q = 70m<sup>3</sup>/s）させるとともに、天神ヶ谷川合流点（3.8km）までの500m間の河道拡幅（Q = 50m<sup>3</sup>/s）が概成している。平成3年度には、県管理区間の800mが「ふるさとの川モデル事業」として着手され、計画高水流量の1/2に相当する90m<sup>3</sup>/s河道が整備されることになった。直轄区間においても、平成4年度より1.2kmから2.8km間の河道拡幅を多自然型河川工法により実施している。

以上のように河道改修は鋭意進捗しているものの、地理的要因から浸水被害の解消には至っておらず、毎年のように浸水被害に悩まされている。流域内には国道33号や高知自動車道、JR、私電等の公共施設や住宅が密集し発展しており、流域の重要度の向上を勘案すれば、より高い治水安全度を確保するために早急に抜本的な治水対策の実施が望まれる。

表 - 2 治水施設の整備状況

年 度	治水施設	計 画 諸 元	事 業 名	備 考
昭和28年度 ～ 41年度	宇治川放水路他	2 R 型（R = 1.1m） 標準馬蹄形 計画排水量 1 0 m <sup>3</sup> /s	地盤沈下対策事業	
昭和39年度 ～ 41年度	宇治川樋門	幅3.5m × 高4.0m × 6門 敷高T.P. 8.87m	直轄河川改修事業	
昭和48年度 ～ 50年度	宇治川排水ポンプ	計画排水量10m <sup>3</sup> /s	同 上	S50.8 台風5号 による大水害により 激特事業に採択
昭和50年度 ～ 51年度	同 増 設	計画排水量10m <sup>3</sup> /s (合計20m <sup>3</sup> /s)	激特事業（直轄）	
昭和51年度 ～ 52年度	同 増 設	計画排水量10m <sup>3</sup> /s (合計30m <sup>3</sup> /s)		
昭和51年度 ～ 56年度	早稲川放水路	計画排水量70m <sup>3</sup> /s	激特事業（補助）	
昭和54年度 ～ 60年度	宇治川暫定改修完	T 1 / 5 (R 30mm/hr)	直轄河川改修事業	L = 3.3 km L = 2.9 km S55完
平成4年度 ～ 7年度	宇治川改修再着手	L 1.3 km	"	多自然型川づくり による河道改修
平成8年度 ～ 12年度	ポンプ増設	計画排水量 10m <sup>3</sup> /s	床上特緊事業	平成12年度 より運転



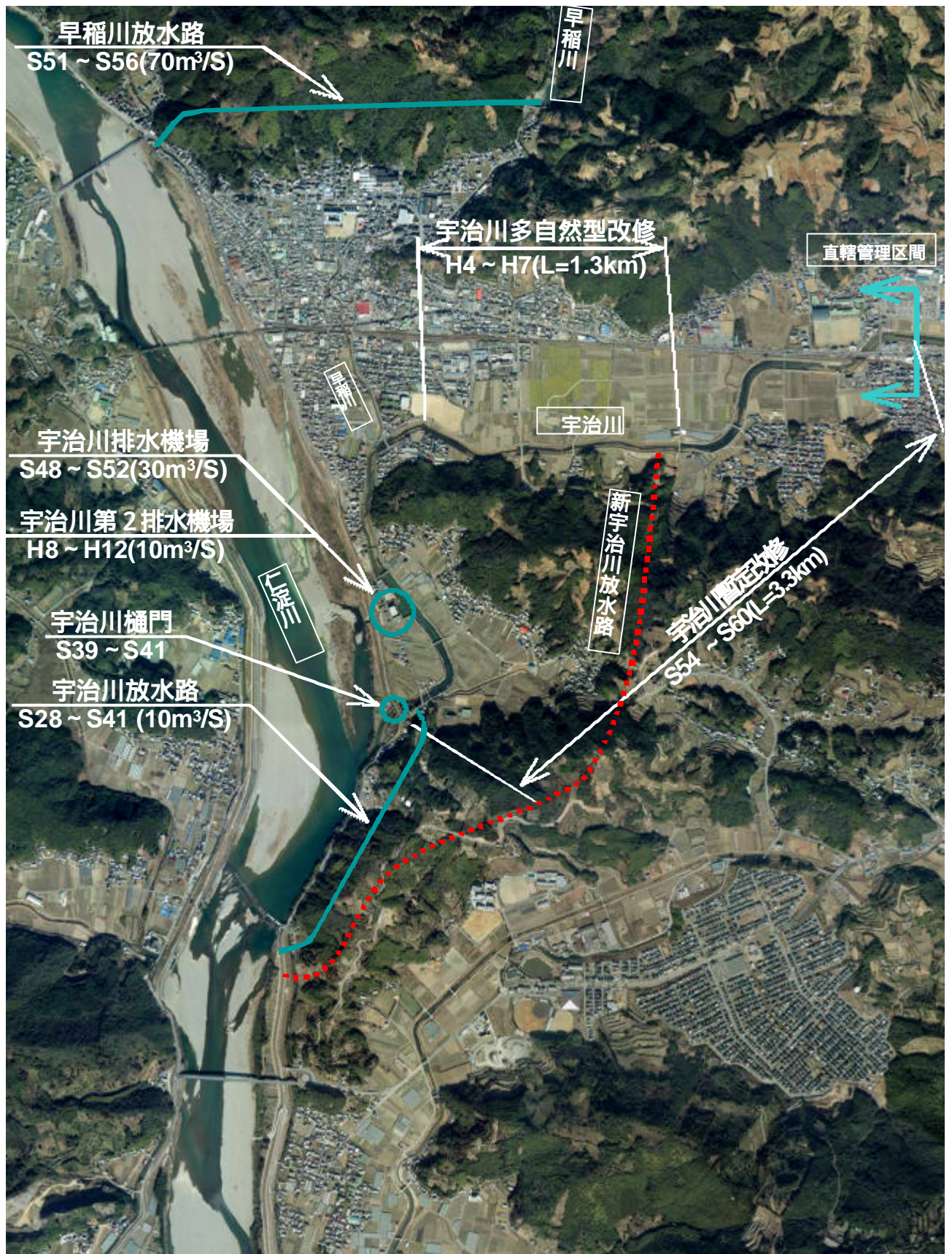


図 - 5 宇治川治水事業の位置図

## 4 . 宇治川床上浸水対策特別緊急事業の概要

### 1 ) 事業の目的

宇治川流域の慢性的な浸水被害を軽減解消することを目的として、平成18年度までに集中的に治水施設の整備を行うものである。

### 2 ) 事業の内容

#### 宇治川排水機場の増設

仁淀川の水位上昇に伴う宇治川の排水不良による浸水被害を軽減・解消するため、宇治川排水機場(30 $\text{m}^3/\text{s}$ )の下流に宇治川第2排水機場(10 $\text{m}^3/\text{s}$ )を増設し、排水ポンプによる内水排除を行う。

#### 新宇治川放水路の建設

宇治川独自の洪水による浸水被害を解消するため、新宇治川放水路により新たに55 $\text{m}^3/\text{s}$ の排水能力を確保する。

#### 河道の改修

宇治川の氾濫防止と排水ポンプや新宇治川放水路の効率化を図るため、宇治川の断面積を広げる河道整備を行う。



図 - 6 事業計画イメージ図

### 3) 宇治川床上特緊事業の主な経緯

- 平成7年4月 : 宇治川床上浸水対策特別緊急事業化
- 平成11年11月 : 事業再評価(事業着手後5年経過)の審議を受ける
- 平成12年3月 : **宇治川排水機場ポンプ(増設10m<sup>3</sup>/s)完成**
- 平成12年12月 : 事業認定申請書公告縦覧及び告示
- 平成13年3月 : **河道改修完了**
- 平成13年6月~ : 土地収用法による現地調査, 現地審理開始
- 平成13年10月 : **トンネル第一工事(呑口側)着手**
- 平成14年3月 : 放水路工事起工式
- 平成14年5月 : 吐口堤内収用裁決
- 平成14年9月 : 収用裁決終了
- 平成14年10月 : トンネル第二工事(吐口側)着手
- 平成15年2月 : 吐口側導水路工事着手
- 平成15年3月 : 用地取得完了
- 平成15年11月 : 呑口側導水路工事着手
- 平成16年9月 : トンネル第一工事(呑口側)掘削予定到達
- 平成19年3月 : **放水路完成予定**

【平成11年12月7日付 高知新聞】

【平成12年3月19日付 高知新聞】

**四国地建**  
**宇治川対策は「適切」**  
**監視委が事業再評価**

国の直轄公共事業の実施一方建設局事業評価監視委員  
 状況を再評価する「四国地一會」(委員長=河野清・徳  
 島大名大学教授の十一年度の  
 の第一回会合が六日、高松  
 市内で開かれ、河川事業の  
 宇治川床上浸水対策特別緊  
 急事業について、「適切か  
 つ慎重に進められている」  
 と確認した。

同委員会は土木工学の専  
 門家ら七人で構成。事業採  
 択後五年を経過した後も未  
 着工などを懸念に抽出した  
 直轄事業などについて、適  
 正に事業が進められている  
 かを再評価し、地建局長に  
 意見を申す。

宇治川床上浸水対策特別  
 緊急事業は伊野町の流域浸  
 水被害の軽減、解消を目的  
 に平成七年に事業採択され  
 たが、約三六億円の放水  
 路は工事未着手のまま。総  
 事業費は約二百十三億  
 円で、未着手分は約百二十億  
 円。

会合では「河道改修は進  
 んでいるが、今年も百二十  
 五戸が浸水するなど、放水  
 路がなければ十年に一回の  
 洪水に対応できない」「工  
 事が遅れるとコストがかか  
 り、町民、県民の財政的マ  
 イナスが大きくなる」など  
 の意見が出された。

委員会は①事業の重要性  
 を地元へ引き続き情報提供  
 する②放水路事業実施に向  
 け、地元の理解が得られる  
 よう努力する③留意して  
 事業を進めるよう意見をま  
 とめた。

同委員会は来年一月二十  
 四日に第二回会合を開き、  
 本県の高知南国道路、地芳  
 道路など道路事業四件、砂  
 防事業一件を審議する予  
 定。

**伊野町**  
**宇治川排水ポンプ増設**  
**浸水被害軽減へ**

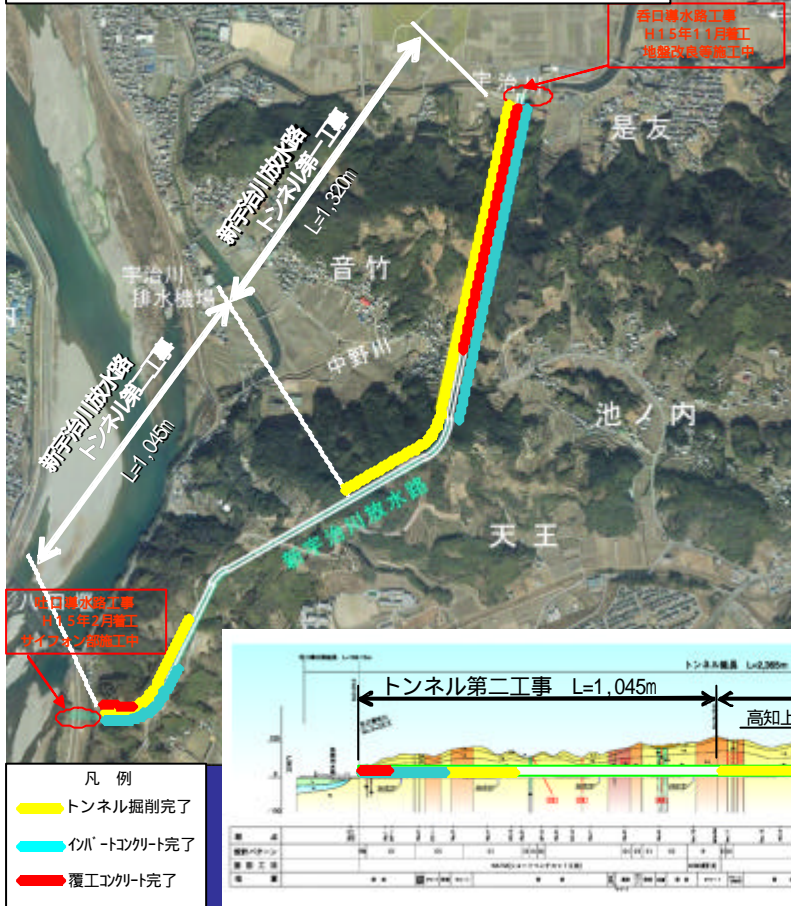
伊野町の宇治川排水ポンプ増設工事は、  
 川床の浸水被害を軽減し、  
 町民の安全と財産の保護に  
 大きく貢献する。増設ポンプ  
 は、  
 平成十二年三月十九日、  
 高知新聞に掲載された。

**新宇治川放水路が着工**  
**17年度 浸水不安解消へ**

伊野町  
 伊野町は、  
 宇治川床上浸水対策特別  
 緊急事業の一環として、  
 新宇治川放水路の着工式  
 を、  
 平成十四年三月九日、  
 高知新聞に掲載された。

【平成14年3月9日付 高知新聞】

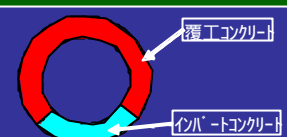
#### 4)新宇治川放水路の進捗及び工事施工状況



### 工事進捗状況

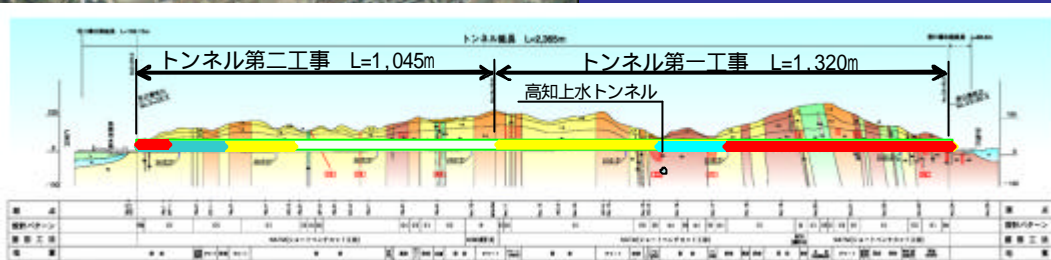
**トンネル第一工事進捗状況**  
平成16年10月31日現在

トンネル掘削	1,320m	■
インバートコンクリート	957m	■
覆工コンクリート	766m	■



**トンネル第二工事進捗状況**  
平成16年10月31日現在

トンネル掘削	525m	■
インバートコンクリート	275m	■
覆工コンクリート	96m	■



## 5 . 費用対効果の考え方

### 1 ) 総費用 ( C )

費用は、宇治川床上対策特別緊急事業に要する事業費とその効果を発揮させる為に必要な補助河川事業費、町のポンプ ( 下水道 ) 事業費及び評価対象期間内の維持管理費を対象とする。

建設費については整備期間分を、維持管理費については施設完成後の 5 0 年間分をそれぞれ見積もる。また、評価対象期間終了時点において、残存価値が評価できるものは、それを除き現在価値化して算出する。

$$( \text{総費用} ) = ( \text{建設費} ) + ( \text{維持管理費} ) - ( \text{残存価値} )$$

なお、社会的割引率は 4 % とする。

建設費：整備期間は平成 7 年度～平成 1 8 年度で算出	：	41,059 百万円
維持管理費：整備期間終了後 ( 平成 1 8 年 ) から 5 0 年間で算出	：	4,731 百万円
残存価値：平成 6 8 年度の残存価値を算出	：	- 680 百万円
計		45,110 百万円

### 2 ) 効果額の算定 ( B )

治水事業の便益は、事業を実施しない場合と、実施した場合の被害額の差分で評価することとし、評価期間 ( 整備期間 + 5 0 年間 ) の被害軽減額に洪水の生起確率を乗じ、所定の規模まで累計することにより算出される「年平均被害軽減期待額」を現在価値化して算出する。

被害額は一般資産被害 ( 家屋・資産 )、農作物被害、公共施設被害、営業停止被害等を計上。

評価期間：平成 1 9 年度から 5 0 年間

計画対象規模：1 / 1 0

浸水被害の軽減：次頁参照

総便益：9 3 , 3 7 5 百万円

### 3 ) 費用対効果

$$B / C = 2 . 1$$

## 6 . 再評価の概要

事業再評価に係る資料

事業の概要	事業名	宇治川床上浸水対策特別緊急事業	事業種別	直轄河川改修事業		
	水系名等	一級河川仁淀川水系	河川名等	宇治川		
	事業主体	四国地方整備局	管理者名	四国地方整備局		
	市町村名 (事業区間)	自：高知県吾川郡伊野町是友地先 至：高知県吾川郡伊野町八田地先	延長(河道改修)	1,642m		
			延長(放水路建設)	2,587m		
	事業採択年度	平成7年度				
	事業期間	平成7年度～平成18年度				
	用地着手	平成11年度	工事着手	平成8年度		
	再評価実施理由	事業採択後10年間を経過した時点で継続中の事業				
	全体事業費	約25,600百万円				

### 事業の目的

宇治川流域は、上流に行くほど堤内地盤が低い低奥型の地形となっており、宇治川の河床勾配が緩いことも相まって洪水が流れにくく、過去から幾多の内水被害を被ってきている。

上記のことより、宇治川流域(伊野町)の浸水被害の軽減、解消を図るものである

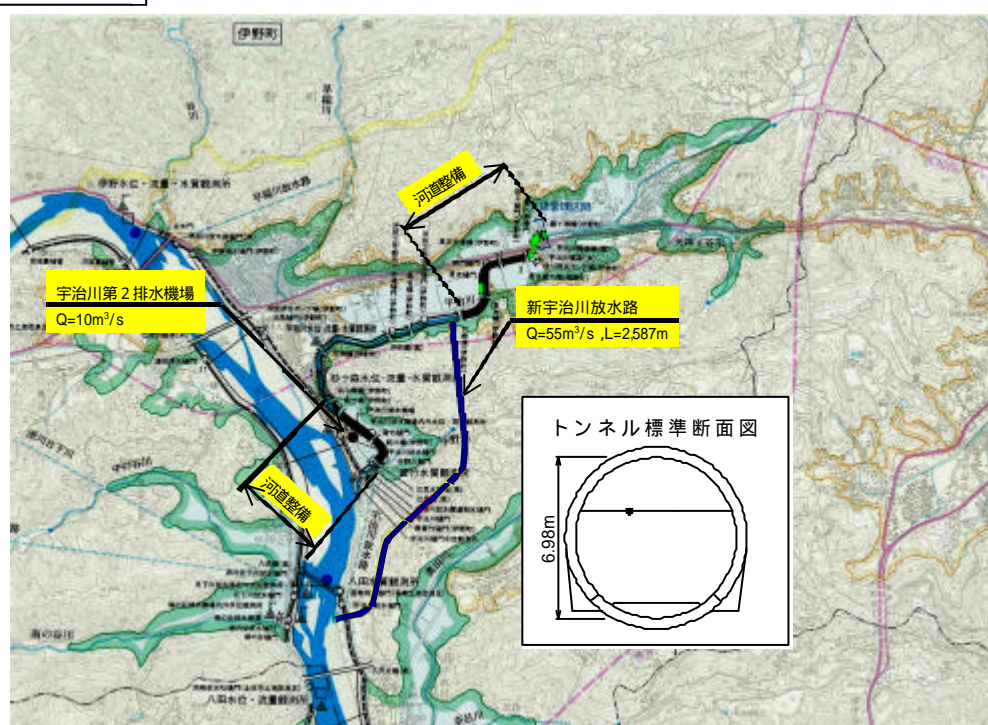
### 構成施設(全体事業量)

河道改修・・・・・・・・・・1,642m

排水機場・・・・・・・・・・10m<sup>3</sup>/s

放水路建設・・・・・・・・・・2,587m

### 位置図



【再評価の視点】

事業を巡る社会経済情勢等の変化の状況の必要性	現状での課題	宇治川流域は、上流に行くほど堤内地盤が低い低奥型の地形となっており、宇治川の河床勾配が緩いことも相まって洪水が流れにくく、過去から幾多の内水被害を被ってきている。																																																						
	災害発生時の影響	浸水戸数 : 2,307戸 重要な公共施設等 : 役場, 県合同庁舎, 一般国道33号, JR土讃線, 土佐電鉄等 災害弱者関連施設 : 病院, 老人ホーム, 小中高等学校等																																																						
	過去の災害実績	<b>宇治川流域における平成5年以降の主な被災実績</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年月日</th> <th>床上浸水(戸)</th> <th>床下浸水(戸)</th> <th>年月日</th> <th>床上浸水(戸)</th> <th>床下浸水(戸)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成5年6月2日</td> <td>1</td> <td>7</td> <td>平成11年6月29日</td> <td>32</td> <td>93</td> </tr> <tr> <td>平成5年7月28日</td> <td>14</td> <td>94</td> <td>平成11年7月28日</td> <td>2</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>平成5年8月10日</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>平成12年11月1日</td> <td>12</td> <td>105</td> </tr> <tr> <td>平成5年11月12日</td> <td>90</td> <td>119</td> <td>平成13年10月9日</td> <td>0</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>平成6年7月25日</td> <td>0</td> <td>6</td> <td>平成14年8月11日</td> <td>0</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>平成9年9月16日</td> <td>8</td> <td>128</td> <td>平成14年9月2日</td> <td>93</td> <td>184</td> </tr> <tr> <td>平成10年6月25日</td> <td>1</td> <td>33</td> <td>平成15年8月8日</td> <td>0</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>平成10年9月24日</td> <td>21</td> <td>65</td> <td>平成16年8月1日</td> <td>49</td> <td>176</td> </tr> </tbody> </table>	年月日	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)	年月日	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)	平成5年6月2日	1	7	平成11年6月29日	32	93	平成5年7月28日	14	94	平成11年7月28日	2	32	平成5年8月10日	1	3	平成12年11月1日	12	105	平成5年11月12日	90	119	平成13年10月9日	0	11	平成6年7月25日	0	6	平成14年8月11日	0	28	平成9年9月16日	8	128	平成14年9月2日	93	184	平成10年6月25日	1	33	平成15年8月8日	0	5	平成10年9月24日	21	65	平成16年8月1日	49	176
	年月日	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)	年月日	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)																																																		
	平成5年6月2日	1	7	平成11年6月29日	32	93																																																		
	平成5年7月28日	14	94	平成11年7月28日	2	32																																																		
	平成5年8月10日	1	3	平成12年11月1日	12	105																																																		
	平成5年11月12日	90	119	平成13年10月9日	0	11																																																		
	平成6年7月25日	0	6	平成14年8月11日	0	28																																																		
	平成9年9月16日	8	128	平成14年9月2日	93	184																																																		
平成10年6月25日	1	33	平成15年8月8日	0	5																																																			
平成10年9月24日	21	65	平成16年8月1日	49	176																																																			
地域の開発の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県都高知市の通勤圏であることから、流域内の宅地化が進行。</li> <li>・ 高知自動車道の整備, 高知西バイパスの延伸等、大型公共事業が集中。</li> </ul>																																																							
地域の協力体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受益地である枝川地区では「新宇治川放水路 建設推進協議会」が結成され、放水路建設の促進要望活動を行っている。</li> <li>・ 吐口にあたる八田地区において活発な反対運動があったが、平成15年3月の用地取得完了後は活動も沈静化している。</li> <li>・ 現在は各地区に対し、「工事説明会」, 「地下水監視委員会」等で地元協議を行って事業を進めている。</li> </ul>																																																							
評価の基となる需要予測	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成5年11月実績洪水(1/10規模)の再現計算結果から、本事業等の実施により、床上浸水は191戸から0戸に解消出来ると予測される。</li> <li>また、昭和50年以降の25洪水において再現計算を行うと、昭和50年8月洪水を除く24洪水において床上浸水被害を解消出来ると予測される。</li> </ul>																																																							
費用便益費	現在の費用便益費 : $B/C = 2.1$ 総費用 : 45,110百万円 総便益 : 93,375百万円																																																							
事業の投資効果																																																								

事業の進捗状況		
<p>執行済み額（平成15年度末）</p> <p>事業費：14,087百万円（進捗率55%）</p>		
事業進捗の見込み（今後の見通し）		
<p>平成12年度までに排水ポンプ増設、河道改修を終えており、今後は現在施工中の新宇治川放水路工事を着実に進捗させて、平成18年度末の放水路通水及び事業効果発揮を目標に工事を進めていく。</p>		
コスト縮減や代替案立案の可能性	代替案の可能性の検討	河道改修案、ポンプ増設案、放水路吐口の下流移設等代替案と比較検討した結果、現放水路案が妥当であるとの結果をえている。（平成12年度再評価委員会にて検討結果は報告済み）
	コスト縮減方策	建設発生土の有効活用や導水路の柔構造化、トンネル断面の変更等によりコスト縮減を図っている。
地方公共団体の意見	地元から早急な整備完了を要望されている。	
対応方針（案）	事業継続	